

1. 研究課題名：生態学的ビッグデータを基盤とした生物多様性  
パターンの予測と自然公園の実効力評価

2. 研究代表者氏名及び所属：久保田康裕 琉球大学理学部



3. 研究実施期間：平成 27-29 年度

#### 4. 研究の趣旨・概要

日本で開催された第 10 回生物多様性条約締約国会議（COP10）では、2020 年までに保護区を世界の陸域の少なくとも 17%まで広げるという戦略目標が設定されました。生物多様性保全に有効な保護区の新設・再配置の検討は、国際的に緊急の課題です。特に、日本は生物多様性ホットスポットの一つとして世界的にも注目されている地域なので、早急な保全対策が要求されています。近年、様々な生物多様性情報が急速に蓄積され、それは生態学的なビッグデータとなりつつあります。本研究では、生態学的ビッグデータを基盤とした分析を行い、日本の生物多様性の起源と維持のメカニズムを解明し、生物多様性の保全効果を最大化する自然保護区の配置策を提案します。

#### 5. 研究項目及び実施体制

琉球大学と統計数理研究所の各研究グループで、日本の生物多様性の保全の政策提言を目標として、以下 2 つのサブテーマを実施する。

- ①生物多様性情報のプラットフォーム構築と保護区配置分析（琉球大学）
- ②生物分布情報の多様性を考慮した生態ニッチモデルの開発（統計数理研究所）

## 6. 研究のイメージ

